

# 星座のおはなし

## 春の星座

### 春の大曲線

春に北の空高くのぼっているおおぐま座にある北斗七星のひしゃくの柄のカーブを延ばしていくと、うしかい座のアルクトゥルス・おとめ座のスピカと一等星が連なっている曲線のことを指します。

### 北斗七星

北斗七星はおおぐま座にある、ひしゃくの形をした7つの星です。北極星を中心として反時計回りに円を描きながら、季節ごとに位置を変えます。明るい星が多いので初めての方でも簡単に見つけることができます。晩春には真北の空へ、夏には北西の空へ移っていきます。北斗の「斗」は中国語で水をくむひしゃくのことです。秋から冬にかけて地平線すれすれに浮かぶ姿は、地面へ水をかける格好をしているように見えます。

### うしかい座

うしかい座は、晩春から梅雨の頃に描けて頭の真上を通り過ぎる大きな星座です。2匹のりょう犬(りょうけん座)を従えた、「うしかい」すなわち「牛を飼う人」という意味の星座です。うしかい座の1等星「アルクトゥルス」の意味は、「熊の番人」で、日本では麦の刈り入れ時の春の宵に頭上で輝くことから、「麦星」の名で親しまれています。

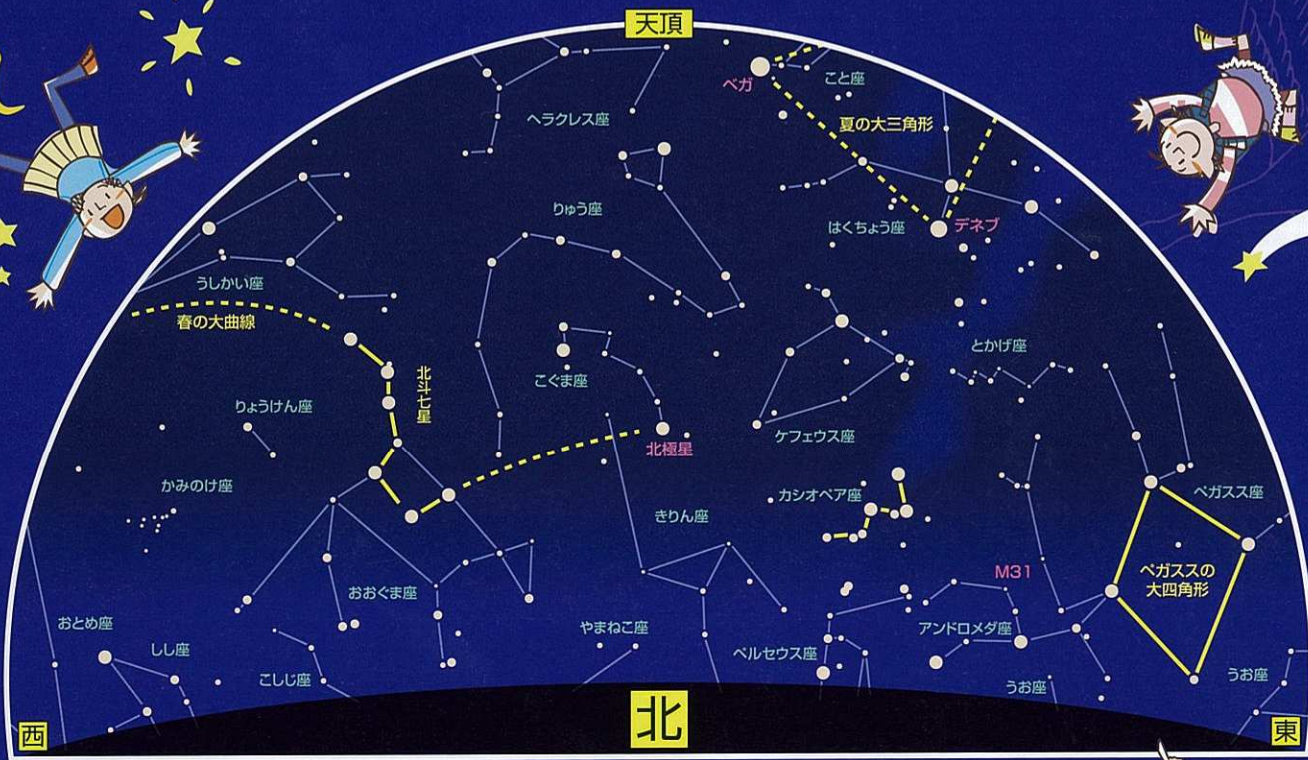
### おとめ座

おとめ座は黄道十二星座のひとつで、うみへび座に次いで全天で2番目の大きな星座です。晩春から初夏にかけての夜空で見ることができます。春の大曲線の一端をなす1等星スピカのある左手に麦の穂を持っていて、スピカとはラテン語で「穀物」という意味を表しています。

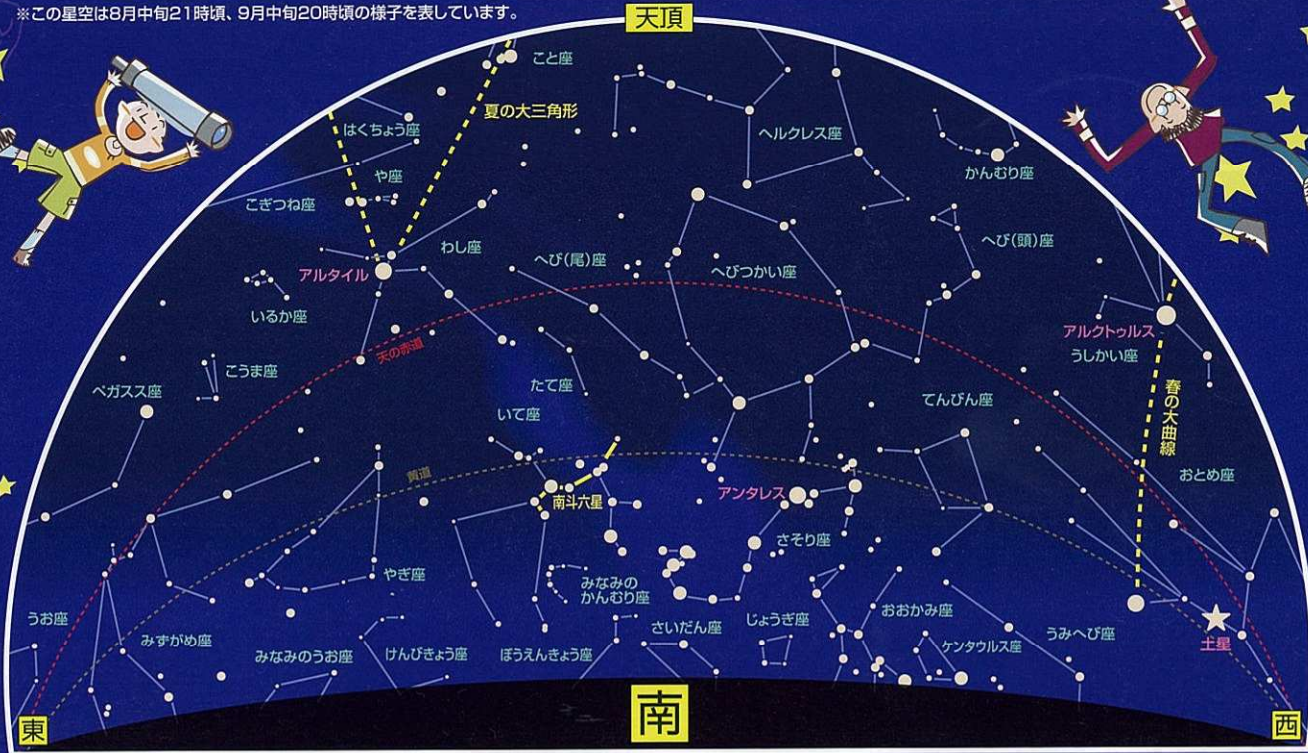
## 夏の星座

### 夏の大きな三角形

夏の星座の目印で、こと座のベガ、わし座のアルタイル、はくちょう座のデネブの3つの星を結んで描かれています。夏の大きな三角形は、夏の晴れた夜、暗くなってすぐに、東の空の高いところから天頂付近にかけて見られます。



※この星空は8月中旬21時頃、9月中旬20時頃の様子を表しています。



## はくちょう座

七夕でおなじみの、織り姫星(ベガ)と彦星(アルタイル)と夏の大きな三角形をつくる3つの1等星の中で、三角形の北東に位置する星が、はくちょう座のデネブです。デネブはしっぽ(尻尾)という意味で、その名の通りはくちょう座の尻尾の位置で輝いています。この星座は天の川の上に翼を広げた形をしています。夏の代表的な星座で、南天の南十字に対して北十字(ノーザンクロス)とも呼ばれています。

## わし座

こと座のベガから向かい合うように、天の川の反対岸に位置してある明るい星がわし座のアルタイルで、この星は七夕の彦星として有名です。わし座はこの星を中心にやや形の崩れた十字形をしています。わし座は夏の夜空でこと座のベガ、はくちょう座のデネブとともに、天の川の流れをはさんで夏の大きな三角形と呼ばれています。

## こと座

夏から秋にかけての夜、頭上を見上げると明るい3つの星が直角三角形を形づくっているのが夏の大きな三角形であり、その中でもっとも青白く輝いているのがこと座のベガで、七夕の織り姫星としてもおなじみの星です。夏の夜空を見上げ、ほぼ天頂付近に輝く一番明るい星がベガですから、こと座はとて見つけやすい星座です。

## 秋の星座

### 秋の四辺形

秋の空の中心をなす、アンドロメダ座のα星とペガスス座のα、β、γ星の4つの星がやや東西方向に長めにならんだ大四辺形のことです。等級は暗いですが、比較的容易に見つけることができ、秋の四辺形はペガスス座のメイン部分なので、ペガサスの大四辺形とも言います。ちなみにペガススはラテン読み、ペガサスはギリシャ読みです。

## ペガスス座

明るい星が少ない秋の夜空において、明るさの揃った4つの星が目にとまります。これがペガスス座で、カシオペア座のW字型と並んで最も目立つ星列ですから、すぐにわかると思います。日本では「耕形(ますがた)星」などよぶ地方もありました。このペガサスの大四辺形が秋の星座探しのお目印になります。